

## 「日独青少年指導者セミナー」

### 1 趣 旨


「青少年の保護、育成」をテーマに、児童虐待やネット依存等により、保護が必要な青少年の支援や取組について、行政機関、関係団体・施設等での実地体験、青少年教育指導者との研究協議などを行う。それらを通して、日本の青少年教育等の現状と取組の理解や日独の青少年教育等の比較などを行い、青少年教育指導者の資質・能力の向上を図る。

### 2 ねらい（プログラムのポイント）

- （1）児童虐待に対する取組を理解する  
児童相談所が行っている虐待に対する取組や職員の資格・養成について学習する。  
また、事例研究を通して日独の取組の違いについて具体的な協議を行う。
- （2）有害情報に関する取組を理解する  
石川県の条例を受け、市全体で「プロジェクトK（子どもたちに携帯を持たせない）」運動を行い、有害情報から子どもを守る活動を行っている取組を学習する。
- （3）日本を理解する  
ホームステイ体験により、日本人の日常生活及び習慣に対する理解を促進する。

### 3 日 程

- （1）期 日 平成25年5月16日（木）～5月20日（月）【4泊5日】
- （2）参加者 ドイツ団員9名（男性4名、女性5名）
- （3）研修内容

5月16日 （木）	午後	石川県到着 金沢観光（兼六園・金沢城）	
5月17日 （金）	午前	石川県中央児童相談所 （概要説明、職員との意見交換）	
	午後	石川県立児童生活指導センター （概要説明、職員との意見交換） ホームステイ	
5月18日 （土）	終日	ホームステイ	
5月19日 （日）	午前	ホームステイ	
	午後	交流パーティー	
5月20日 （月）	午前	国立能登青少年交流の家施設見学	
	午後	野々市市教育委員会（“ののいっちっ子を育てる”市民会議） 東京へ移動	

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・児童相談所や児童自立支援施設の訪問を通して、青少年の保護・育成に関わる日本の制度や関係機関の役割を学ぶとともに、日独の支援体制や支援方法の相違点・共通点について理解を深めた。
- ・ネット依存の予防策の一つとして、野々市市の市民レベルでの取組を通して、子ども、若者、親、教育機関を対象とした、メディアリテラシー教育の重要性を学んだ。
- ・日独の青少年教育に携わる指導者同士の意見交換や交流を通じて、各国の具体的な取り組みや対応について知ることができ、改めて自国の青少年教育について考える機会となった。
- ・研修を通して、ドイツ団から日本への提言として、「支援者の専門性の向上」、「支援に携わる機関の連携」、「親の協力、親への支援」などがあげられた。
- ・ホームステイにおいて、日本の家族とのふれあいや日本の生活体験、史跡名所巡りなど、日本の歴史や伝統・文化にふれる中で、日本に対する興味関心が深まり、研修とは違った視点での学びや気づきがあった。

### (2) 課題（受入施設：能登青少年交流の家の課題）

- ・プログラム全体の関連性或中央プログラムでの学習内容の情報を共有する。
- ・訪問施設との今後における協力体制の構築及び継続的な連携を図る。
- ・国際交流事業のあり方やノウハウを蓄積する。
- ・訪問施設や受入施設だけでなく、広域的に青少年の保護・育成に携わる指導者が意見交換や交流ができる場を設定する。



一時保護所の見学



野々市市の訪問



和太鼓体験



能登青少年交流の家